

帝運株式會社	東	京二十萬圓	小島嘉十郎	丸龜支店	丸龜市源助町	一		
信久組	神	戶百萬圓	頃末兼一	丸龜支店	仲多度郡多度津町	七	大	七
日本國債株式會社	東	京十萬圓	竹村鐵次郎	高松支部	高松市田町	九	大	七
紐育スタンダード石油會社	米			高松油槽所	高松市濱ノ丁	三	大	七
ド石油會社	米			高松油槽所	高松市東濱町	四	大	七
ライジンクサン石油會社	米			高松油槽所	高松市東濱町	四	大	七

經濟時事問題解説

(大正十五年一、二、三月)

○三豐紡績株式會社

岡山の倉敷紡績が觀音寺に手を延しいよく近く三豐紡績會社の設立を見ることになつた。人口過剰で行詰り農業一式を捨て、工業に轉せんとする三豐郡民の志望旺なる折柄この企業の起されたことは單に一營利會社の設立としての意義以上に香川縣にとつて喜ぶべきことである。新設の會社は名目は三豐紡績であるが實際上は倉紡側に於て半数以上の株を有し總ての新設工事を其手に行ふと云ふ以上倉紡分工場と見て差支へない、資本金が三百萬圓、計畫であるが第一期として二百萬圓を据付け敷地は二百坪八百人の工女を使用して一箇年に一萬四千四百梱を生産する目論見であるが倉紡は其他に高松工場に精紡機二萬一千錠を増設して既に竣工してゐる。倉紡が本縣に

既設の精紡機は坂出工場一万六千四百四十八錠高松工場二万一千八錠で新設を合して八萬錠に達する。倉紡十工場で二十七萬錠の中本縣に於ける割合は比較的大と云はねばならぬ。倉紡が斯く本縣に着眼し來つたことは交通の至使な點は勿論として最大原因は女工を得易い點にあると思はれる。現在各紡績會社の女工爭奪戦は有名であるが實に女工募集費が勞銀の一割三分に當つてゐる。而も倉紡はこの點に特色を有し倉敷及萬壽第二工場の少數の寄宿女工を除き後は全部通勤工で約一萬人に達する。紡績業のみならず一般大規模組織の工業の通弊とする勞働問題に倉紡が多大の注意を拂つて勞働科學研究所の設置或は病院の經營等に依つて職工の福利増進に努めつゝあるは確かに異彩を放つてゐる。三豊紡績の設立は他方に農民にも影響をなふる所大であらう。特に多くの農民子女を使用するに於ては従つて青年の氣風にも變化を與へるものである。

○宇野開港問題と高松

海運は陸運に比して輸送力多大で輸送費も頗る低廉なことは何人も認むる所である。然るにこれが又開港でないといふに不利を蒙る。例へば宇野にしても高松にしても滿州から豆粕を直輸入するとすれば中途門司で資格變更を行はなければならぬ。若し有税品を少しでも積み合してゐれば神戸まで行かなければならぬ輸出に於ても同様である。これが此度宇野開港或は特許港問題として岡山

縣當局及商業會議所等が猛運動を開始してゐる直接の理由である。

由來開港場となるには自然的及技術的の條件を備へなければならぬ。然し技術的條件即水深、繫船壁、陸上運輸機關との聯絡及倉庫設備、船渠及自由地帯の設置等は或程度まで金即人力で解決出来るものであるが自然的條件即國際航路に於ける位置、水流の關係、港灣の廣狹及後脊地の生産及消費量等に於て勝れてゐることを絶対に必要とする。今の所宇野はこの兩條件に於て餘り勝れてゐると云へぬ。さればにや税關出張所を得て開港特許港たらしめんとしてゐるのである。岡山商業會議所は縣の諮問に對し特許を受けるための緊要事として、(イ)外國爲替銀行の設置に努力すること、(ロ)外航船舶の寄港を誘致すること、(ハ)宇野と種種の關係を有する貿易港との間に命令航路を設定すること、(ニ)宇野に貿易業者を誘致すること、(ホ)花蔴検査所の設置を運動すること、(ヘ)常設的の貿易調査機關を設置することの六項を擧げてゐる。

宇野が開港問題で喧しい折柄、高松も亦同様の不便を蒙つてゐる以上一考する必要がある。殊に宇野は現在水深十二尺餘、而も陸上設備に於ても不備であるから多大の經費を要することは明であるが高松は明年度に於て水深干潮二十三尺満潮三十尺に達し三千噸級の船舶の出入は自由自在となり陸上設備に於ても整備することになるから港灣の技術的方面に於ては高松は頗る有望である。尙又輸出入貨物に於ても高松が遙に勝れてゐるに於ておやである。たゞ開港場としての輸出入貨物に於

て何等特種のものを持たないことが高松にとつて大きい障害となつてゐる。然し何時迄も神戸大阪に依存することは四國の關門高松として甚だ不甲斐ないことゝ云はなければならぬ。宜しく此際開港促進のため高松市及香川縣共に詳細なる研究調査を行ひ開港の障害となつてゐる縣下商工業の不振が那邊にあるかを徹底的に闡明して時勢に適應する方策を樹立することが急務であらう。

○鹽飽海面入會漁業問題

限られた物資と無限に増殖する人口は實に人類の解決すべからざる厄介な問題である、國際間の紛争から一家内の波瀾に至るまで禍根は擧げてこの人口問題にある。昨年未より前後二回の會合に依つても協調ならず遂に訴願の提起を見るに至り今尙紛争を續けてゐる岡山縣と當縣の鹽飽海面入會漁業問題も亦其一つである。

歴史的の事情に依つて香川は比較的廣大な海面を有し岡山側は狹小な海面である關係上明治二十七年入會漁業契約を結んで爾來鹽飽五島沿岸は無制限に岡山縣漁業者にも開放してゐたものが三十年を経過した今日双方の漁船數も増加し加ふるに漁業不振の折柄島民の日常生活に打撃を受けることゝなつたので香川縣當局は相當の制限の方針を取り昨年夏以來岡山側の漁業許可願に條件を附して打撃を與へた。ために之を動機として岡山縣と香川縣當局の争となり數回交渉を重ねても漁船數と

漁場について一致點を見出し得ないのである。

問題となつてゐる鹽飽海面は内海有數の漁場で鯛、鱈、チヌ等の漁獲の多いだけ問題の解決を困難ならしめてゐる。

○小鳥の流行

小作爭議流行の後を承けて今では本縣に小鳥飼養がすばらしく流行してゐる。昨年未現在二萬四千戸に二十二萬番の小鳥を飼養し本年度に於て二十七萬番の雛鳥が生れると云ふ有様である。就中仲多度郡を中心とし郡部に於て最も盛んである。もとより五圓位の親鳥が二十圓五十圓の雛を生み現在昨年中の縣外移出數二萬五千番價格二十萬圓と云ふ成績を擧げてゐる以上それ自身有利な事業で何も悪くはない。然しこの天井知らずの暴騰が何時か下落せる場合に多くの倒産者を出すことは豫め覺悟せねばならぬ。それが市井の商人に非ずして多く堅實なる農家であると云ふ所に深き注意を要する。

農村に射倅心の流行は最も忌むべきである。小鳥の流行は趣味として極めて歓迎すべきであるがそれが非生産的であり投機性が甚しいだけ農家の副業としては危険大なるものと云はねばならぬ。目前の小利必すしも大利に非ず。小鳥の流行は農家の警戒すべきものゝ一つであらう。